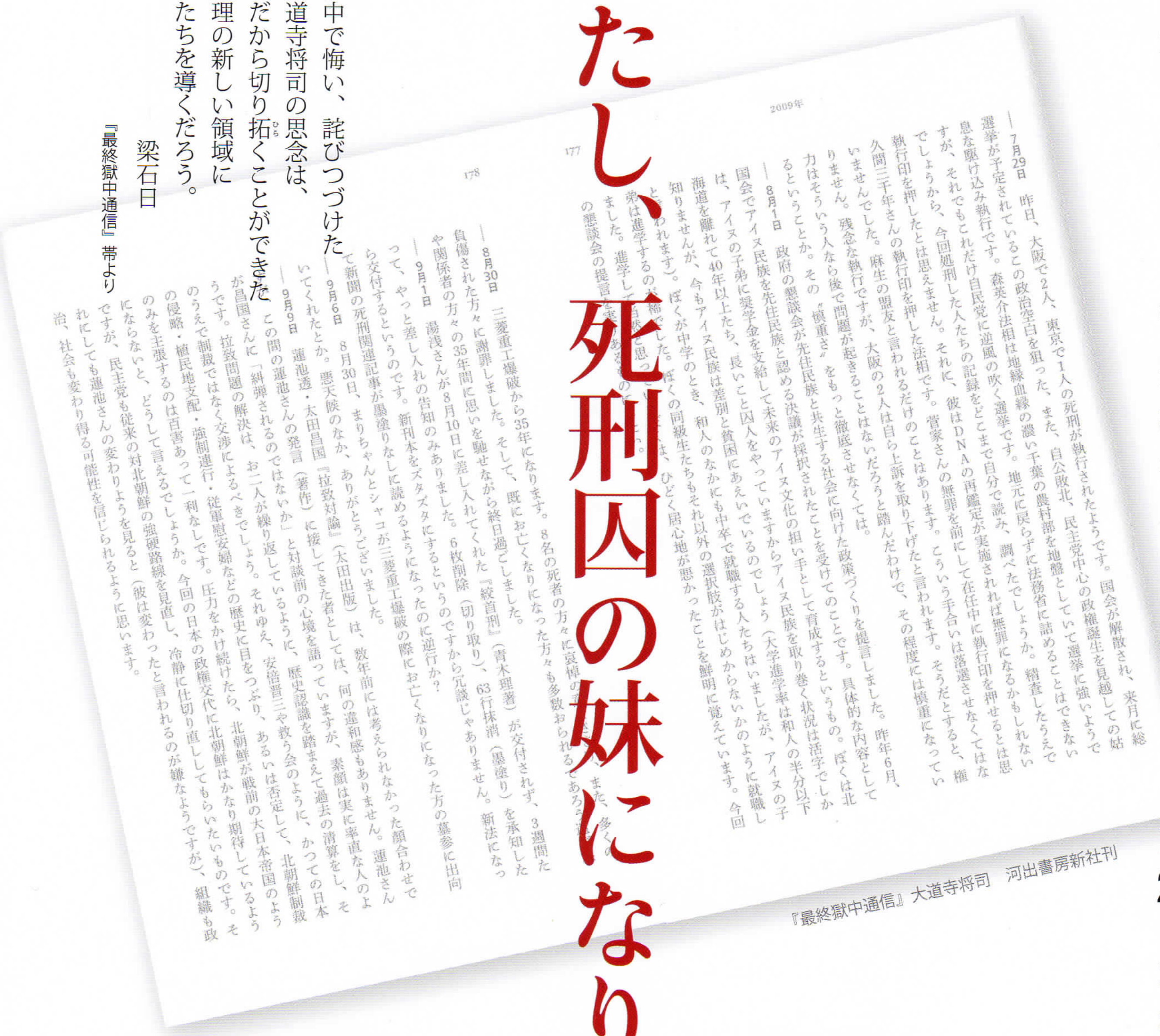
「死刑を止めよう」宗教者ネットワーク 第27回死刑廃止セミナー

わたし、死刑囚の妹になりました。

獄中で悔い、詫びつづけた
大道寺将司の思念は、
彼だから切り拓（ひら）くことができた
倫理の新しい領域に
私たちを導くだろう。

梁石日

『最終獄中通信』帯より



2009年

177

―7月29日　昨日、大阪で2人、東京で1人の死刑が執行されたようです。国会が解散され、来月に総選挙が予定されているこの政治空白を狙った、また、自公敗北、民主党中心の政権誕生を見越しての姑息な駆け込み執行です。森英介法相は地縁血縁の濃い千葉の農村部を地盤としていて選挙に強いようですが、それでもこれだけ自民党に逆風の吹く選挙です。地元に戻らずに法務省に詰めることはできないでしょうから、今回処刑した人たちの記録をどこまで自分で読み、調べたでしょうか。精査したうえで執行印を押したとは思えません。それに、彼はDNAの再鑑定が実施されれば無罪になるかもしれない久間三千年さんの執行印を押した法相です。菅家さんの無罪を前にして在任中に執行印を押せるとは思いませんでした。麻生の盟友と言われるだけのことはあります。こういう手合いは落選させなくてはなりません。残念な執行ですが、大阪の2人は自ら上訴を取り下げたと言われます。そうだとすると、権力はそういう人なら後で問題が起きることはないだろうと踏んだわけで、その程度には慎重になっているということか。その〝慎重さ〟をもっと徹底させなくては。

―8月1日　政府の懇談会が先住民族と共生する社会に向けた政策づくりを提言しました。昨年6月、国会でアイヌ民族を先住民族と認める決議が採択されたことを受けてのことです。具体的な内容としては、アイヌの子弟に奨学金を支給して未来のアイヌ文化の担い手として育成するというもの。ぼくは北海道を離れて40年以上たち、長いこと囚人をやっていますからアイヌ民族を取り巻く状況は活字でしか知りませんが、今もアイヌ民族は差別と貧困にあえいでいるのでしょう（大学進学率は和人の半分以下と[illegible]われます）。ぼくが中学のとき、和人のなかにも中卒で就職する人たちはいましたが、アイヌの子弟は進学するのが稀でした。ぼくの同級生たちもそれ以外の選択肢がはじめからないかのように就職しました。進学して当然と思って[illegible]は、ひどく居心地が悪かったことを鮮明に覚えています。今回の懇談会の提言を実りあるもの[illegible]

178

―8月30日　三菱重工爆破から35年になります。8名の死者の方々に哀悼の[illegible]、また、多くの負傷された方々に謝罪しました。そして、既にお亡くなりになった方々も多数おられるであろう[illegible]や関係者の方々の35年間に思いを馳せながら終日過ごしました。

―9月1日　湯浅さんが8月10日に差し入れてくれた『絞首刑』（青木理著）が交付されず、3週間たって、やっと差し入れの告知のみありました。6枚削除（切り取り）、63行抹消（墨塗り）を承知したら交付するというのです。新刊本をズタズタにするというのですから冗談じゃありません。新法になって新聞の死刑関連記事が墨塗りなしに読めるようになったのに逆行か？

―9月6日　8月30日、まりちゃんとシャコが三菱重工爆破の際にお亡くなりになった方の墓参に出向いてくれたとか。悪天候のなか、ありがとうございました。

―9月9日　蓮池透・太田昌国『拉致対論』（太田出版）は、数年前には考えられなかった顔合わせでこの間の蓮池さんの発言（著作）に接してきた者としては、何の違和感もありません。蓮池さんが昌国さんに「糾弾されるのではないか」と対談前の心境を語っていますが、素顔は実に率直な人のようです。拉致問題の解決は、お二人が繰り返しているように、歴史認識を踏まえて過去の清算をし、そのうえで制裁ではなく交渉によるべきでしょう。それゆえ、安倍晋三や救う会のように、かつての日本の侵略・植民地支配・強制連行・従軍慰安婦などの歴史に目をつぶり、あるいは否定して、北朝鮮制裁のみを主張するのは百害あって一利なしです。圧力をかけ続けたら、北朝鮮が戦前の大日本帝国のようにならないと、どうして言えるでしょうか。今回の日本の政権交代に北朝鮮はかなり期待しているようですが、民主党も従来の対北朝鮮の強硬路線を見直し、冷静に仕切り直ししてもらいたいものです。それにしても蓮池さんの変わりようを見ると（彼は変わったと言われるのが嫌なようですが）、組織も政治、社会も変わり得る可能性を信じられるように思います。

『最終獄中通信』大道寺将司　河出書房新社刊

と　き　2018年**7**月**5**日（木）

じかん　18:00（開場 17:30）～ 20:00

ところ　**京都 YWCA ホール**

京都市上京区室町通出水上ル近衛町 44

アクセス　市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車徒歩 10 分

申し込み不要。どなたでも参加できます。

そのまま会場にお越しください。

資料代　５００円

大道寺ちはるさん

京都市在住。２５歳のころ死刑囚（大道寺将司（まさし））の獄中書簡集を読んで興味を持ち、文通・面会を始める。死刑が確定すると家族以外の交流が許可されないため、死刑囚の母と養子縁組して妹になる。死刑確定（１９８７年）後、「大道寺将司くんと社会をつなぐ交流誌　キタコブシ」の発行を始め、死刑囚の病死（２０１７年）により１７８号で終了。死刑囚の日録をまとめた『最終獄中通信』が今年３月に刊行された。

主催　「死刑を止めよう」宗教者ネットワーク
　　　京都から死刑制度の廃止をめざす弁護士の会
　　　死刑廃止を求める「京都にんじんの会」
協力　京都 YWCA

連絡先 「死刑を止めよう」宗教者ネットワーク事務局　amemorikeii@hotmail.com　📱090-1963-0952（雨森 慶為）
〒600-8164 京都市下京区上柳町 199　東本願寺 しんらん交流館 真宗大谷派解放運動推進本部 内　☎ 075-371-9247